

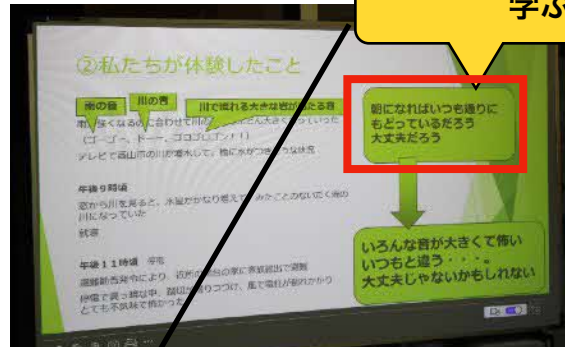
実践2 5年生理科 単元：流れる水のはたらき 「10.20災害から学ぶ」

(1) 学習の展開

次	概要
1	・ 流れる水のはたらきには、けずる（浸食）、運ぶ（運搬）、ためる（堆積）の3つがある。 ・ 普段はあまり見ることはできないが、大水が出た時に顕著に見られることを知る。
2	・ 10.20災害について知る。 ・ 体験談から水害の様子を学ぶ。 ①岸奥に住んでいた天木スマ子さんの手記 ②打保に住む藤戸さんの手記（大正時代の戸谷地区の大水害の記録を含む） ③宮川に住み、消防士として働く山小瀬さんの話を聞く。

(2) 学習の様子

☆消防士の山小瀬さんから当時の心情とともに災害の様子を学ぶ



「正常性バイアス」を学ぶ

☆当時の災害を教訓とするために宮川小中でまとめた冊子『「10.20災害の語り部」になりました』（田中博先生監修）から学ぶ。



【消防士の話】

- ① 備えあれば憂いなし。
- ② 「かもしれない」で行動しよう。
- ③ 自分にできることは何か考えて行動しよう。



【学習後のB児の振り返り】

「かもしれない」と考えるのが大切。起きてからじゃ遅いと思ったし、「備えあれば憂いなし」だから、**大丈夫だろうはよくないことを学んだ**。危険が近づいてくることを考えて、逃げる準備をしたい。巣之内の道路が崩落し、移動手段がなくなったという**教訓**から、7日間生き延びる備えが必要だと感じた。今までは大丈夫で逃げ遅れそうになった人もいたので、**逃げることを優先する行動が必要だ**と思った。

B児は、10.20災害時に宮川の人々「正常性バイアス」により、判断が鈍くなったことを学んだ。「自分も正常性バイアスにより判断が鈍くなるかもしれない」という危機意識をもったことで、消防士の話がより自分事となり、教訓を生かそうとする思いにつながった。

(3) 成果

- 児童自身が住む宮川の過去の災害についてまなぶことは、当事者意識を高め、過去の教訓を生かして「防災や減災のためにどんな備えや行動をすべきかについての考えを広め、深めること」につながる。
- 「正常性バイアス」が判断を鈍らせることを学んだことは、危機意識をもつことにつながり「過去の教訓を生かす」必要感を感じることに繋がった。宮川小中で作成した『「10.20災害の語り部」になりましょう』は、東北における「津波てんでんこ」「過去の津波の高さを示す石碑」と同様に「過去の教訓を生かす」ことを学ぶことができるものであり、「防災を含む安全教育」で効果的に活用できる。

実践3 地域学校協働活動 自然体験教室「宮川わくわく探検隊～防災キャンプ～」

(1) 学習の展開

月	概要
6	・ 児童と地域の大人たちが話し合う「あゆっこ会議」で、「児童が今年度学びたいこと」「地域で児童をこのように育てたいという思い」を共有。 ・ 児童の「泊まりの活動がしたい」と地域の「防災について地域全体で学びたい」という願いから、夏休みに防災キャンプを開催を決定。
7	【当日のプログラム】 ・ どんな防災袋を準備すればよいかな？ ・ 防災食を食べよう！ ・ 秘密基地を作ろう！ ・ 星を見る会 ・ 灯りの話

(2) 学習の様子

☆どんな避難袋を準備すればよいかな？



※自分の家の避難袋の中身を点検したり、自分で作る避難袋を考えたりし、交流。

☆防災食を食べよう！



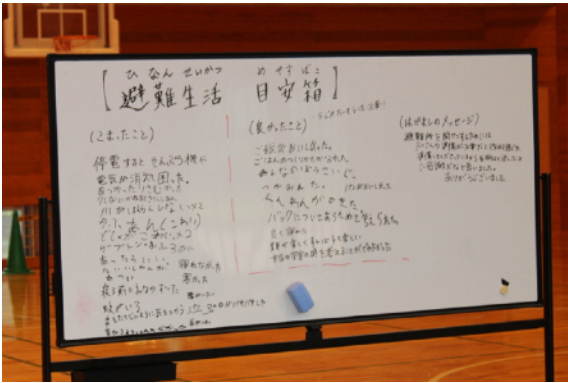
※主食は α 米。おかずにはポリ袋で作る「切り干し大根とツナ・塩昆布のサラダ」「じゃがりこポテトサラダ」。おかずは、簡単にでき味もよく、好評だった。

☆秘密基地を作ろう！



※段ボールを使いプライバシーなど考えて就寝スペースを作成した。

☆避難生活目安箱



※ホワイトボードに「困ったこと」「良かったこと」「励ましメッセージ」と題し、いつでも誰でも活動中の「気付き」を記入できるようにした。

【児童の感想】（抜粋）

- ・夕方、急に電気が切れたのでびっくりした。停電すると扇風機が止まり使えなくなるので、夏の今は困る。
- ・体育館では、眠れなかった。でも、ご飯はおいしかった。作り方も分かった。

【地域の大人の感想】（抜粋）

- ・防災について、改めて考えさせられた。定期的にやれるとよい。
- ・避難所生活は長期化すると大変なので、災害がおきないことを願いたい。

(3) 成果

- ・実際に避難所生活を体験することで、避難生活の大変さを実感できた。不便さを感じることで、自然と、「どうすればよりよく過ごせるか」を考えることにつながり、防災、減災を自分事にできた。
- ・子どもも大人も同じ立場になってホワイトボードに気付きを出し合ったり、学んだことを交流したりすることは、災害時に「大人任せにするのではなく、自分たちも行動しないといけない」という児童の当事者意識を育むものとなった。
- ・最初から完全な避難所運営が難しいことを学べた防災キャンプとなり、事前に幾度となくシミュレーションや実体験をすることを通して、より最善でより最良な判断の上での避難所運営につながることを意識できた。